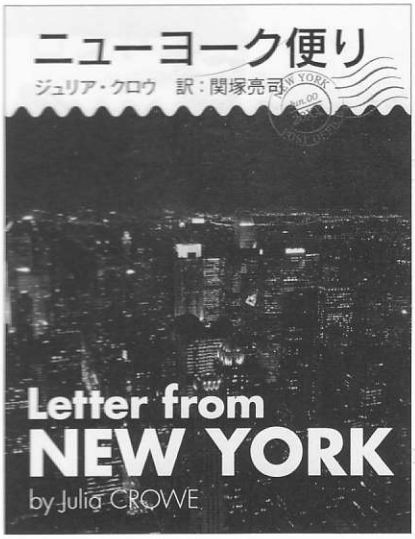

●アルメニア出身の女性ギタリスト、ゴハー・ヴァルダニャン

ゴハー・ヴァルダニャン（Gohar Vardanyan）は、ジュリアード音楽院でシャロン・イスビンに師事して修士号を取得したが、学士号はピーボディ音楽院で取得した。そこではマヌエル・バルエコに師事し、優秀な成績でハロルド・ランドルフ賞を受賞した。

生粋のアルメニア人である彼女は、ギタリストである父ヴァルダン・ヴァルダニャンの手ほどきでギターを始めた。8歳でアルメニア国営テレビ放送に出演し、“アマデウス”アルメニア音楽コンクールで優勝。その後ニューヨークに留学、ジュリアード音楽院のプレカレッジ部門でアンティゴーニ・ゴーニに師事し、インターローケン・アート・アカデミーではジョン・ウンシュに師事した。また彼女は、アスペン音楽フェスティバル＆講習会の卒業生でもある。

彼女の演奏は、米国のNPRラジオ放番組『フロム・ザ・トップ』と、アルゼンチンの国営ラジオ放送に取り上げられたことがある。

彼女は2013年には、ノース・イースト・ペンシルバニア・クラシックギターソサエティ、アーカンソー・テック大学、シアトル・クラシックギターソサエティ、テキサス州のフォートワース・ギターソサエティ、フロリダギター財団、ヒューストン・クラシック・マインド・フェスティバル、ミシガン州のインターローケン・アート・アカデミーにゲストアーティストとして招聘され演奏した。

ゴハー・ヴァルダニャンが、5歳でギターを始めたときに使用した楽器は、合板製のハーフサイズのギターだった。

「私の記憶に間違いがなければ、このギターにはブドウの木の赤い葉が描かれていたと思います」

「父は、私の成長に合わせて、ギターの側面板に乗せる私の腕と弦の距離が一定になるように、右腕の下にパッドを入れてくれました。この方法で、正しいテクニックと手の位置を保つことによって、手を障害から守ることができました。そして、私の体が大きくなるにつれて、手ごろな材料を使って父が作ってくれた3/4サイズのギターを短期間でしたが使いました」

「私が育ったころのアルメニアは、ソビエト連邦が統治していたので、3/4サイズのギターを手に入れるのは容易ではありませんでした。ですから、8歳になるまでフルサイズのギターを弾いていましたが、最初は、左手が届くように第3フレットにカポタストを付け、その後第2フレットに移し、最終的にはカポタストなしで弾いていました」

「アルメニア国立テレビ放送で私が演奏したときの写真では、フルサイズのギターを使用しています。写真を良く見ると、父が、私の手を取って舞台に上がった後、舞台から去っていく後ろ姿が写っているのがわかると思います。ですから私は不安を感じませんでした」

ギタリストである彼女の父親は、楽器の演奏が原因で局所性ジストニアという筋失調症になった。

「当時この障害は、音楽や芸術の世界ではタブーだったので、あまり知られず、問題視されることはなかったのです」

「私の父は、この障害の原因究明のために何年も努力しました。しかし、既に演奏出来なくなっていた父は、その過程で、テクニックを学び、それを指導するようになりました」

「子供時代を普通に過ごすことが出来た私は幸運でした。アイスクリームやキャンディーやおもちゃと引き換えに練習するようには言われましたが、1日4時間の練習を強制されるようなことはありませんでした。1日で合計1時間以上の練習をしたことはありません。練習は10～15分刻みで行ないました。練習というものは、量ではなく質が問題ですから、1日1時間で充分でした。先生が家

ゴハー・ヴァルダニャン

にいるわけですから、手の位置、弦の弾き方、読譜など、私がやることはすべてチェックされました。私がテクニックを習得できたのは、父のお蔭です」

「私の両親は、私がアルメニアにとどまる限り、2人が期待するようなギターの世界での私の将来はないと間もなく気付きました。アンティゴーニ・ゴーニが、GFAで優勝した後、モスクワで行なったコンサートをテレビ放送で観ました。父は彼女の演奏が大好きでした。ジュリアード音楽院のプレカレッジ部門で、彼女が教えていることを知りましたので、私の演奏を何曲かビデオテープに録画してジュリアード音楽院に送ったのです」

ゴハー・ヴァルダニャンは、ジュリアード音楽院のプレカッレジ部門の後、高校の課程を修了するためにミシガン州のインターローケン・アート・アカデミーに入学、その後学士号を取得するためにピーボディ音楽院に入り、マヌエル・バルエコに師事した。

「マヌエル・バルエコの音楽に対するアプローチは驚異的でした。すべてが自然な流れで、人工的なものは一切感じられませんでした」

「これを習得するためには、楽譜に書かれたすべての音符を完全に自分のものにしなければなりません。恐らく、これが最も困難な挑戦だと思います。作品を演奏するための技術的な面は不可視

アルメニア国営放送に出演した８歳のヴァルダニャン。左隅に父親の後ろ姿が見える

であることが必要ですが、音楽は、何の障害もなく、指によって伝えられるものです」

「バルエコから、ゆっくりとした速さで練習するように言われたとき、私の演奏が、彼が考えていたようなスピードになっていなかったことを思い出します。半分以下のスピードで作品を練習することは、私にとって全く新しいコンセプトでした」

「彼は、クリアな音、フレージング、ダイナミックスといった面で、完全な演奏をする方法を教えてくれました。作品をゆっくり弾くことによって、細かいところまで知ることを学び、筋肉や指の記憶に任せた演奏はしなくなります。このアイディアこそ、練習に対する私のアプローチの仕方を完全に変えました」

シャロン・イスビンから学んだことについても彼女は語った。

「シャロンからは、音楽に対するアプローチの仕方、音色とダイナミックスの使い方を主に学びました。彼女は、物事を平易な言葉で説明する能力を持った素晴らしい指導者です。彼女の指導法で私が最も高く評価しているのは、改善に必要なことについては多く語りますが、生徒が自信を失うようなことは一切言わないということです」

「彼女は、最高の演奏が出来るように生徒をリードしますが、生徒が誤らない限り、最終的には、すべての判断を生徒自身に委ねて尊重してくれました。私は、これこそ指導者としての質の高さであり、生徒に最高の演奏をさせるように指導出来る能力だと思います。私は、シャロン・イスビンを心から尊敬しています」

「何か問題があって彼女に相談すると、彼女が解決出来ることであれば、助けてくれますが、解決出来ないことであれば、その理由を話してくれます。彼女に師事したことによって、私は、学校を卒業し実社会に出てから必要な自信を与えて貰えました。また、彼女は、ギタリストであり音楽家である自分の個性を大切にすることも教えてくれました」

ゴハー・ヴァルダニャンは、『スモール・レッスン』という教育用ビデオシリーズを製作し、YouTubeチャネルに提供している。また最近、メル・ベイ社から『クラシックギターの完全ウォームアップ法』という著書も出版した。

「この本は、私が毎日実行しているウォーミングアップ練習を集大成したものです」

「20年間の演奏活動を通じて、ウォーミングアップのルーティンをいろいろ試してきましたが、この本に書いた方法に落ち着きました」

「簡単な左手の和音によるマウロ・ジュリアーニのアルペジョ練習も１曲入っています。これを使ったのは、アルペジョのウォーミングアップを展開してトレモロのウォーミングアップに転換していくためのいろいろな右手のパターンを示すためです」

「2オクターヴスケール練習も1つ入っていますが、これは左手のポジションを移動させながら、右手のスピードを変化させる練習を組み入れたものです」

「この本の最大のポイントは、演奏する前に手をウォーミングアップすることによって、自分の練習量に対する不安を取り除くことです。私が書きたかったのは、レパートリーの練習を始める前に行なうべき、簡単なウォーミングアップ法を示した本です。今後メル・ベイ社と協力して、編曲譜を何曲か書くことになると思います」

彼女のデビューCD『Paisajes』（風景）がリリースされたのは2013年のことだが、このCDには、彼女の輝かしい演奏による次のような作品が収録されている。

ヨーゼフ・カスパール・メルツ〈ハンガリー幻想曲 Op.65-1〉、イサーク・アルベニスの〈セビーリャ Op.47-3〉、ホアキン・ロドリーゴ〈祈りと踊り〉、レヒーノ・サインス・デ・ラ・マーサ〈アンダルーサ〉、アストル・ピアソラ〈ブエノスアイレスの春〉、アグスティン・バリオス〈森に夢見る〉、ホアキン・トゥリーナ〈ギターソナタ Op.61〉。

「ここに列挙した曲は、私がコンサートで演奏し、デビューCDに録音した作品です」

「来シーズンに向けて、コンサート・プログラムを一部変更する関係で、この内の何曲かは一時的に演奏しなくなるので、録音したいと考えました。加えて、このCDには、ギター愛好家だけでなく、すべての人に楽しんでいただけるような、作品を入れたかったのです。最終的には、手頃なレパートリーであると同時に、挑戦的なレパートリーを選びました」

長年ドイツのヴァルケス・ルビオのギターを愛用してきたゴハー・ヴァルダニャンは、は、2013年の夏に、ジーン・ロンプレ製作による杉製の新しいギターを入手した。

「これは、長らく私が望んでいた美しくて、重い、ピアニスティックなクォリティの音を出す素晴らしい楽器です。弾き込めばそれなりに音を出す力を秘めた楽器です。音の美しさは驚異的です。いろいろなホールで、音の響きに、どのような変化があるのか興味津々です」

彼女は、この新しいギターを使用して2013年年11月にアルゼンチンでコンサートを行なったが、2014年のカレンダーによると、1月はポートランド州立大学、2月はアリゾナ州立大学、3月はサラソタ・ギターソサイエティー、4月にはフィラデルフィア・ギターソサエティでのコンサートが予定されている。

詳しくは、以下を参照：

http://www.goharvardanyan.com
http://www.youtube.com/user/gvguitar?feature=watch
http://www.youtube.com/user/ProductShowcaseSBM?feature=watch
http://www.jeanrompre.com/